

平成30年 2月 6日

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 ふじえ 真理子

平成29年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成30年 1月30日 (火)	石川県輪島市	『エコカートによる 公道での自動運転について』
平成30年 1月31日 (水)	岐阜県高山市	『議会改革について』

豊明市議事課
30.2.-6
分類 . . . 30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第 75 号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

会派「新風とよあけ」行政視察 報告書

提出日 平成30年2月6日
豊明市議会議員 ふじえ真理子

<視察先と視察テーマ>

★石川県輪島市 平成30年1月30日(火)
『エコカートによる公道での自動運転について』

★岐阜県高山市 平成30年1月31日(水)
『議会改革について』



↑高山市議会議場で

◆石川県輪島市（商工会議所） 『エコカートによる公道での自動運転について』

まちの概要

能登半島の北端に位置。「輪島塗」や朝市、白米千枚田などが有名な観光都市。人口約3万人、面積約420km²、高齢化率43%、財政力指数0.22、議員17名。

視察の内容

- ◎人口減少、高齢化、自治体財政難、公共交通サービスの脆弱性などの課題解決のため、輪島商工会議所が中心となり8年前から狭あい地区でも走行可能な「エコカート」を走らせる検討を始めた。現在、市街地内を路線バスのように巡回させている。
- ◎エコカートの最高速度は19km/h、「発進/停止」ボタンのみで運行、「自動/手動」の切り替えも可能。
- ◎コースは全部で3コース。現時点では歩行者や自動車に与える影響や安全性と利用者の意見・感想を収集するため、あくまでも「調査走行」の段階。
- ◎手動運転での調査走行は2コース設定、商工会議所職員2人が勤務時間に運転手を務める。残り1コースは自動運転（レベル2）となっている。運行時間は午前10時～午後3時で1周15～20分、料金は無料。
- ◎ポイントは、先端的技術を争うのではなく「日常レベルの足の確保をリーズナブルに」を一番大切に考えている。
- ◎平成22年度から会頭を筆頭に新交通制度導入に向け調査を開始→構造改革特区申請の提出、実験走行用としてヤマハ発動機からの実験走行用車両（2台）の貸出、国交省・警察関係機関との調整など→平成26年度にエコカートの軽自動車ナンバーを取得し公道走行を開始→行政、運輸、利用者、区長、老人会、国県の出先機関、警察らで構成される「次世代交通対策協議会」を設立→H27年度に2台追加→平成28年度に公道において誘導線を埋設し（←全額ヤマハ協力）自動運転を開始（調査走行）。利用者人数は年々増加。同年度から3カ年、端末交通システムの実証評価地域に選定されている。

ふじえの所感

- ◎行政をあてにするのではなく、商工会議所の自主事業としてまちの課題を解決するため「住民の足の確保」に自ら果敢に取り組んでいることは、会頭の熱い心とリーダーシップを感じ素晴らしいことだ。なぜなら、まちの発展は地元の商工会の特色ある取り組みと密接に関わっていると思うからである。住宅都市である本市においても、商店など特色ある商工業の発展がまちのにぎわいにつながるため、そうした環境整備の必要性は議会としてもバックアップしていき、商工会員当事者の声に耳を傾けながら施策提案につなげていけるようにしたい。
- ◎エコカートを提供しているヤマハ発動機と商工会議所はウィンウィンの関係。市民福祉の向上につながる民間会社の技術進歩がまちの中で実践的になされている意義は大きい。また、同会議所が描いている将来計画（中心市街地を9コースで自動走行、市内全域14コースで自動走行など）には夢がある。行政が走らせているコミュニティバスと、

狭あい地区も走行可能なエコカートとの連携（棲み分け）を今後どのように充実させていくか、引き続き注目していきたい。

- ◎公共交通網見直しは本市でも、地域バス・デマンドバスの他、住民の足確保の選択肢の一つとしてエコカートも含め、地域特性（道路事業・高齢化率等々）にあった選択肢を示し、地域住民とともに汗を流していくことが必要だと思う。自動走行は国も力を入れている。まちづくり（ハード面）につながることであり、アンテナを高くして刻々と変わる最新情報にも敏感でありたい。また、議会として地域に出向き、目先ではなく将来まで見据えたやり方を市民と一緒に考えていく場の必要性も感じている。

◆岐阜県高山市 『議会改革について』

まちの概要

05年に9町村を編入合併し東京都とほぼ同じ面積の日本一広い市。観光客460万人のうち外国人宿泊者数51万人。人口約9万人、財政力指数0.52、議員24名。

視察の内容

- ◎平成8年から一般質問に「一問一答制」を導入、委員会所管事務調査の活用等々取り組んできた（第一次議会改革）。
- ◎平成17年市町村合併（周辺9町村を編入）当時の議員数は124名で合併特例法に基づいて条例定数36人に。
- ◎平成21年、全議員36人で「高山市議会のあるべき姿」「高山市議会の基本理念」に基づいて調査研究を推進（特別委員会設置）。
- ◎平成22年 議員定数・選挙区の決定により定数は24人に
- ◎平成23年 高山市議会基本条例を制定
 - 特徴：条例ありきでなく、実践を通して制定（計画→試行→評価→制度化の流れ）
 - ：議論する議会をつくる…… 市民と議会 行政と議会 議員同士
 - ：政策提言による議会機能強化を図る
- ◎平成25～26年 条例で総合計画における基本計画を議決事件としているため、各常任委員会を分科会と位置づけ、第8次総合計画に向けての政策課題を設定、その課題について調査研究を実施。
- ◎事前協議の取りやめ（審査の形骸化の回避）…開会前の議案説明時には質疑を行わない等
- ◎議会審議と委員会審査の充実…審査に関して1日かけて論点整理を行ってから本委員会に臨む。委員会として理事者と対峙するため。
- ◎委員会調査の充実…常任委員の任期を1年から2年へ（H25～）
 - 毎月20日前後に委員会定例会開催、所管事務調査の報告と議員間の討論等。
- ◎情報公開…正副議長選挙立候補予定者所信表明のケーブルテレビ・インターネットへの

配信（生中継）

◎請願と陳情…陳情は政策課題の情報源ととらえ、広報広聴委員会において毎月所管の常任委員会に振り分けて調査研究に活用。

◎委員会活動を中心とした政策形成サイクル（2年間でまわす）

市民意見交換会で市民との議論…地域別（年1回以上20会場で）

↓

分野別（各委員会が企画し、随時実施）

↓

委員会 で調査研究及び行政との議論…先進地視察や課題に関する事業の評価結果

↓

と予算決算の審査結果の点検、議員研修

↓

会、政策提言（案）を作成。

政策討論会…各委員会の政策提言の内容について全議員で討論、全員で合意したものを提言として市長等へ提出。

ふじえの所感

◎まず、机上に配布されていた資料が大変充実しており驚いた。

◎「議論する議会をめざして」さまざまな議会改革に取り組まれている。特に、委員会活動を中心とした政策形成サイクルはとても参考になる。常任委員会の任期を2年にしたのも理解できるが、豊明市議会ではまずは委員会活動をもっと充実させ実践の中で、任期についての検証も必要になってくるだろうと思った。

議員間討議も賛否に関わらず、活発に行われているという。反問については、豊明市議会の実績をこちらから説明するなど意見交換もできてよかった。

◎毎月20日前後に定例委員会を開催し、所管事務調査の進捗のみならず、議案についての論点を明確化させ、本委員会の審議に臨むという姿勢もぜひ見習いたい。

◎高山市議会では議会基本条例を制定して7年目に入るが、条例によって議会活動の理念を普遍化させ、総合的・継続的に検証・議論する場として「議会基本条例推進協議会」（全員参加）を設置しているという。

議会運営の検証は終わりが無い。また、いつも議会側が当局に求めるPDCAを、議会側のそれも実践する必要がある、新たな議論ができる場として同協議会の存在はとても意義のあることだと感じた。

豊明市議会でも全議員が参加し現在、月1回議会改革推進協議会を開催している。議員任期4年を一つのサイクルとして、計画→実行→検証を繰り返すことで改選後に引き継ぎができる仕組みづくりを、残り任期1年の間にぜひつくっておきたいと思う。

ワ ー モ WA-MO (Wajima Small Mobility)

日本初!



乗車料金: 無料